

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	骨転移診療コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医学研究科大学院生、一般医師、後期研修医、看護師、薬剤師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系に発生する腫瘍に対する正確な診断や集学的医療の実践を行える能力 ・骨転移に対する正確な診断や集学的医療の実践を行える能力 ・がんロコモティブシンドローム（がんロコモ）の理解と診療の実践を行える能力 ・筋骨格系に発生する腫瘍の術前、術後のリハビリテーションを計画できる能力 ・AYA世代、壮年、高齢者など、各世代の骨軟部腫瘍患者の病状と社会的背景に応じた社会復帰に向けての支援を行う能力 						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計400時間以上を履修すること。等						
履修科目等	<p><必修科目> 整形外科講義・実習、整形外科診療実習</p> <p><カンファレンス> 病理カンファレンス、放射線科カンファレンス、Pediatric Tumor Board、骨転移カンファレンス他</p>						
がんに関する専門資格との連携	日本がん治療認定医機構認定医、日本整形外科学会骨軟部腫瘍認定医、がん専門看護師						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	主に整形外科が診療を担当する骨軟部腫瘍には原発性骨軟部腫瘍と骨転移が存在し、体幹から四肢末梢まであらゆる部位に発生し、腫瘍による症状、あるいは治療に伴い筋骨格系に様々な症状を呈しうる。診断は、画像診断、病理診断が必須であり、放射線科・病理部と連携して行われる。治療は、手術だけにとどまらず、化学療法、放射線治療など科横断的に、集学的に行われる。対象となる患者も小児からいわゆるAYA世代、壮年、高齢者まで非常に幅広く、患者の社会復帰を目的として様々な試みがなされている。筋骨格系に発生する腫瘍というKey wordで、科横断的な様々な取り組みに参加できる、非常に独創的なプログラムになりうる。						
指導体制	骨軟部腫瘍の診断・治療の中心的な役割を担う、整形外科での診療実習を中心に、多診療科カンファレンス（放射線診断部・治療部、病理診断部、リハビリテーション科）や、セミナーに参加する。						
修了者の進路・キャリアパス	骨軟部腫瘍認定医の取得、がん治療認定医機構認定医の取得、各施設での骨転移診療のハブとなる人材						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数設定の考え方・根拠	第3期がんプロにおける骨軟部腫瘍インテンシブコースの実績から、現実的な数字として設定した。						